

景況レポート

(12月分・情報連絡員 80名)

一部業種を除き、依然厳しい状況が続く

【概況】12月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが5.0%(前月調査11.3%)、「悪化」が33.8%(同42.5%)で、業界全体のDI値は-28.8となり、前月調査と比較して2.4ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-34.3で前月調査と比較して0.1ポイント上回った。また、非製造業全体は-25.0で前月調査(-29.2)と比較して4.2ポイント上回った。

前年同様とした業界が多い中で、新車販売台数は4ヶ月連続で前年を上回った。また、法改正前の老人保健施設の駆け込み需要があり、関連業界にとって良い材料となっている。なお、製造業では、食料品の需要が伸びず、冬季に入り県内の住宅建築が一段落したことや、縫製業で品目によって受注が不安定になっていること等により、前年に比べて資金繰りが悪化したとする業界が多い。

(回答数:80名 回答率:100%)

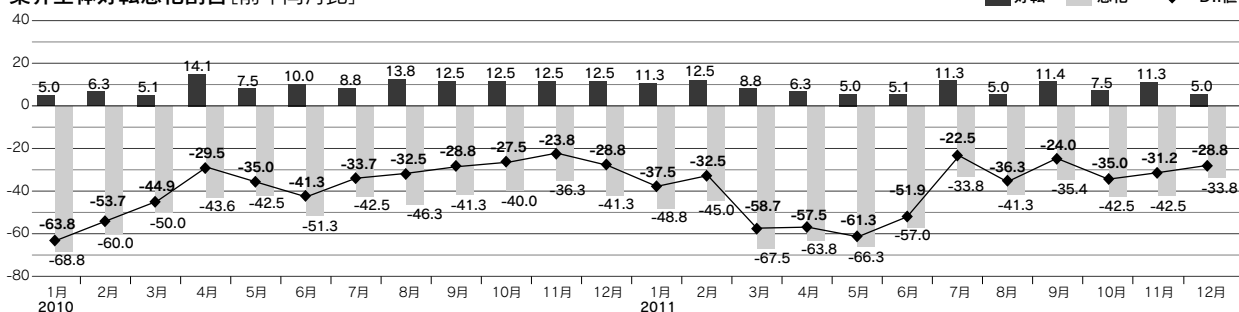
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁
非製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁

【凡例】

 [天気図の見方] 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △10未満 △30未満
 雷雨 △30以下

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

- 麺類製造** 年末年始に内食や中食が増えたせいか、12月は多少商品に動きが見られたが、まだまだ厳しい状況に変わりはない。
- 清酒製造** 11月の清酒出荷量は、前年同月比96.8%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比113.4%、純米酒が106.9%、本醸造酒が84.2%、レギュラー酒が96.1%という状況である。
- 繊維製品** 本来は春夏物の生産で繁忙となる時期であるが、アパレルメーカーの動きが把握できない状況にある。また、材料のほとんどが海外生産となっており、中国以外からの発送となると更に納期が長くなるため、生産が遅れ、収入がないという悪循環に陥った。
- 一般製材** 製材品は不需要期に入ったため並材の動きは落ち着いてきた。一方、今まで動きが鈍かった役物が被災地での需要を見越して手当てされている。なお、原木の流通量は安定しており、価格は横ばいで推移している。
- 自動車販売** 12月の新車販売台数は、登録自動車が1,469台(前年同月比114.2%)、軽自動車が1,554台(同130.5%)で、合計3,023台(同122.0%)であった。なお、2011年の年間新車販売台数は、登録車が前年比83.7%、軽自動車が同87.8%、全体では85.6%となっている。
- 石油販売** ガソリン1ℓ当たり142円で前月比2円引き上げ、軽油1ℓ当たり124円で前月比1円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,622円と前月比23円の引き上げとなった。下旬の寒波、降雪により灯油の需要は伸びている反面、ガソリンは苦戦している。
- 商店街** 自宅用として高級な日本酒等が多く売れ、酒類小売店の売上は昨年よりも良かった。(秋田市) 歳末商戦は大型店に客足をとられ、思ったほど売上が伸びなかった。(秋田市) ポイント売上から推測すると、実績は前年同月比横這いで大変厳しい状況である。当市でも国道282号線を軸とした郊外型店舗が林立してきており、気がつくといつと以前あった店がひっそりと廃業している。(鹿角市)
- 型枠工事** 補助金の駆け込みで老人保健施設が多く発注になり、各地域で一定量の仕事の増加に繋がったと思われる。しかし、今後数ヶ月は徐々に県内の稼働率が下がる傾向が見られ、隣県へのシフトを進めている組合員が多数いる。県外での工事は、諸経費面でも、作業員の健康面でも慎重な対応が必要になるが、秋田県の単価が低いために、県外に向かう企業が増えている。
- トラック運送** 数量・収入とも前年同月比で10%減少しており、依然として厳しい状態が続いている。荷物の減少により営業所を集約したり車両を減車する組合員もいる。